一つ一つ経験を重ねながら、トンボ品質を受け継いでいきたい

3
2024

小林葉月
パタンナー

高校、専門学校で服飾を学ぶ中で、CADの授業に興味があったことから将来はパタンナーの仕事に就きたいと思っていたという小林さん。自分の学生時代の思い出として制服が強く印象に残っていたことから「自分も制服づくりに関わりたい」と入社を決めました。

入社8年目となる現在は、ジャケットのパターン作成を担当。学校へ提案する見本パターンの作成から、制服が採用された後の量産パターンの作成やグレーディング（サイズ展開）まで幅広く業務を任されています。その他、既成サイズが合わない方に別寸サイズへのグレーディングやパターン作成などにも対応しています。このようなきめ細かい対応は、制服業界ならではと小林さんは言います。

「最近は、制服業界でもジェンダーレス化の流れにあり、従来の男子用と女子用のほかにユニセックスのジャケットを採用する学校も増えており、パターンの種類が増えるうえに、前合わせやベントなどの仕様も変わるので大変です」と話す小林さん。パターン作りに正解はないが、きれいなシルエットなど追求しがいがある仕事だと語る。「自信のないときや分からないときは先輩の意見を聞いて、一つ一つ答え合わせをしながらトンボの品質を受け継いでいきたいです」と、小林さんはパターンへの追求を続けます。

もっと生の声 Q&A

思い出に残っていることはありますか?

別寸で注文のあった制服がお客様の手に届いた後、不登校気味だったお客様がその制服を着て登校できるようになったとの連絡をいただいたことです。全体のバランスを取るのが難しく、先輩に教えてもらいながら、時間をかけて作成したパターンだったので、良い報告が聞けてとても嬉しかったです。

今後取り組んでみたいことを教えてください。

弊社では、社員一人ひとりのスキルアップを支援する制度があるので、検定の取得に挑戦したいと考えています。現在、婦人子供既製服のパターンメイキング作業2級を取得していますので、次は1級の取得を目指したいと思っています。

将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。

学生時代に学んだことがすぐに活かせることは少ないかもしれませんが、後々必ず活かせるときがくると思います。勉強以外のことでも普段から興味を持って前向きに取り組むことが大切だと思います。